

第3回：

開催日時：令和7年12月17日（水）午後1時31分～午後2時32分

出席委員：三上委員長、北浦副委員長、卯日、北島、南、野沢、中垣内、  
関山、室谷議長

### 1. 各委員による調査報告

会議では、まず各委員が独自に行った調査結果の報告が行われた。関山委員より、坂井市とあわら市の子育て支援には実質的な差が少ないにもかかわらず、イメージに差異が生じている現状が指摘され、自地域に対する「誇り（シビックプライド）」の醸成の必要性が共有された。卯日委員は、鯖江市の「子どもの権利条例」を例に、幼少期からの「ふるさと愛」が将来的な定着に寄与する可能性を提示した。また、北島委員からは島根県の成功事例を引き合いに、マッチングアプリへの補助など「手近で実効性の高い施策」から着手すべきとの提案があった。中垣内委員からは、キャリア喪失への不安など、女性が結婚・出産を躊躇する社会構造的な課題も指摘された。

### 2. 調査体制の確立とロードマップ

今後の議論を体系化するため、委員会として「人口減少対策ビジョン案」を随時更新していく方針を確認した。専門性を高めるため、以下の5つの専門グループへの役割分担を決定した。

①教育と子育ての魅力化 ②産業と雇用の再構築 ③生活基盤の強化 ④出生率の増加と健康寿命延伸 ⑤移住・定住とPR

年明け以降は行政（理事者）へのヒアリングを開始する。形式は、委員間での事前知識共有（30分）の直後にヒアリング（30分）を行うスタイルを採用し、解像度の高い議論を目指す。

### 3. 活動の最終ゴール

野沢委員より、茨城県境町の事例を参考に、市の魅力を一目で可視化できるチラシやPRツールの作成を成果物とする提案があり、提言に留まらない具体的なアウトプットを目指すことで合意した。次回1月は「出生率増加と健康寿命延伸」をテーマにヒアリングを実施する。

人口減少対策特別委員会（要点筆記）

令和7年12月17日（水）

午後1時31分から午後2時32分

議員 三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、中垣内、関山、室谷議長

欠席 なし

遅刻 なし

傍聴 なし

事務局 東局長、吉田補佐、中西主事

---

○ 協議事項

（1）調査事項の報告について

（2）その他

○ 協議事項

（1）調査事項の報告について

委員長 調査事項について報告願う。

関山委員 坂井市とあわら市の子育て支援について、簡易的に調べたが、基本的にはあまり差はない。どちらかという給食費免除がある分あわら市の方がいいのではないか、という結論に至った。なぜそういうイメージがあるのかということになっていくが、事実としてあんまり変わらない。何が原因かという自分の地域に対する誇りが無いんじゃないかなと僕は考えている。そこの誇りの醸成をどうしていくかというのは市として方針を決めてもいいのではないかと考えている。

委員長 まさに僕自身も調べたことがあるので、そこまで大きく子育ての支援の対策というのは変わらない。でもなんか違うイメージがあるというのは間違いなので、そこは少し深掘りしてもいいんじゃないかなと思う。

卯目委員 前も言ったと思うんですけど鯖江市に知り合いがいて、鯖江市の子ども計画っていうのをもらったその中に、（もしよかったらここにあります。）子供の権利条例っていうのがある。その前に大きくなって離れていってしまう。就職したりとか。都会へ出ていってしまっって帰ってこないっていう大きな問題あると思うんですけど、なぜかを考えても結論は出ない。結論は出ないけどもしかして、小さいときからの育ち方、育て方、教育とかいろんなことも含めて、このふるさと愛っていうかな、そういうものを醸成できたらひょっとして将来的に繋がるんじゃないかなっていう思

いはずっと前からしている。ただ鯖江市のこども計画の中にこういう織り込みがあって、これになるほどなっていることが書いてある。あわら市のもいただいてきたんですけどこの中には、こういうことをしたいっていうそういうものになっている。鯖江市のを見ると、みんなが毎日楽しく平和に暮らせるといい、いじめや悪口暴力仲間外れがなくなればいい、自分の思いや意見を伝えたい、自分の思いを否定せずに聞いてほしい、子供たちが自分の権利について考えた言葉ですと書いてある。子供から見た自分たちの暮らし方とか、そんなことから、大人が見えてきたなと思っている。みんな当然子供は大事にしてると思うがその辺にヒントがあるのかなと思っている。まだそこまでです。まだ全部見てない。婚活に力を入れてるって前に言ったと思うんですけど、この間、県の婚活をした。そのときに、男子16、女子8で5組できた。そこからどうするかっていう問題があるんですけど、これもやっぱりあわら市の婚活もそうですし、続けていくべきかなって思っている。あわらの人がたまたまマッチングした。それが結婚に繋がっていくっていうと、謎である。子供が生まれることを期待するけど簡単にいかない。でもなんでそうなのかとか、どうしたら良くなるかっていうようなことはやっぱりこれからも調べていきたいと思う。

委員長

身近な近隣市町なんで、是非そういう事例をもとにいろいろと議論がさらに深まっていくといいと思う。他に調べた方いらっしゃいますでしょうか。

前回かなりいろんなご意見いただいたんで、もうそこまで今回進捗がないようであれば、これぐらいで大丈夫ですけれども、よろしいですか。それでは、今日は何をしたいかなという話なんですけれども、過去2回のを一応まとめてきたので、共有する。

今後なんですけれども、一応これソフト等を利用して作ってあるんですけど、今までの議論をざっくり体系的にまとめたものである。各自目を通していただければと思う。今後、基本的にはここで議論されたことや調査したことをこういう形で、随時一つの資料みたいな形で取りまとめていこうかなというふうに思っている。それが最終的に例えば人口減少対策の戦略案みたいなものとか、ビジョン案みたいなものになっていくといいと思う。これから多分各論に行くと思うんですけども、教育なら教育、出生率の増加なら出生率の増加とかっていう形で、少し役割分担をして、具体的に進めていくという方向に行きたいと思っている。それをやりながら、その全体像、結局時間軸も含めて、どれが優先されて、どれをやっていくべきなのかっていうことをみんなでこういう場で議論するというようなことをしたいと思う。そのたたき台は基本的に僕の方で全体を取りまとめる

形で毎回作るみたいな形でブラッシュアップしていきたいと思っている。おかしいところは多分あると思うんで、それはご意見いただきながら、随時修正していきたいと思っている。本日は何を決めたいかっていうと、一番最後のページの4のところなんですけれども、今後の計画とグルーピングというところである。まず今後のロードマップについて少し説明すると、年内に関しては先ほど言ったように各委員個人が興味関心のある調査を深掘りする。まだ多分足りてないところもいっぱいあると思うんで、今後もそれは継続していただければいいかなと思ってるんですけれども、前回の議論では、年明け以降に関しては、例えば市の行政側が取り組んでいることをヒアリングもしくは議論するような形をとったり、国内外のモデルケースの検証したりとかってというようなエビデンスベースで話ができるような体制をとっていきたいと思っている。それを進めていく上で、これも前回議論あったように例えばここに来てもらって話すと、理事者の皆さんが緊張しそうなので、こちらもいくつかのグループにわかれて、そのグループでそのやり取りをしていただくというのはどうか。

北島委員

テーマで分けたほうが良い。

委員長

テーマとはどういうことか。

北島委員

例えば、委員長がさっき言ったように、順番が大事。僕がやってほしい企業誘致は一番最後。これは進まないの。相手があることなので。補助金もきちっと組んでいかなあかん。一番最初にやらなあかんっていうのはやっぱりマッチング。そのマッチングが一番手っ取り早くできる。島根婚活サポートセンターはなにがすごかっていうとマッチングアプリとかにも補助金出してる。その成功事例がちゃんと出ている。島根縁結びサポートセンターでマッチングのところ開くと、何人参加して何組成功したかっていうのが出ている。引き合わせ件数2120組、カップリング842組。成婚69組。やりやすいことからやっていくべき。これは県だけど、その財源っていうのは多分、国からも出ている。そういうできることからやっていきたいのでテーマごとにしてほしい。テーマごとだと行政って縦割りなので、ここだけっていう感じになりわかりやすい。横断的じゃないので、わかりやすい。

委員長

テーマごとにやっていった方が良いということですね。

南委員

テーマごとっていうことは、全員が一つのテーマで、あっちと対面して体験のやり取りをするっていうことか。

関山委員

さっきのこの議題は、議論しやすいかしくいかっていうことが議題だと思うんで、僕はグループ案の方がいいと思う。議論しやすいかしくい

かやったら、委縮するからここではしにくいんじゃないかと思う。そういう意味で少人数の方がいいのではないかと考えている。

委員長 皆さんの意見は？僕は北島議員のいったことってあんまり頭になかったので、ぜひ皆さんのご意見を聞きたいなと思う。

北島委員 4つがっぺんに動くと大変なので時間を切ってやってもいいと思う。

委員長 一括で時間を区切って、相手にも簡潔に答えていただくというのをバンバン進めていったらどうかってことですね。皆さんいかがでしょうか？

北島委員 こども手当出したり、出産祝い金みたいな祝い金じゃないけど、いわゆる保険で対応したり、8万円あげたりとか手を打ってるけど少子化は正直止まらない。2023年出生数は75万人で過去最低。でも結婚数は49万組で、微増となっている。ということは結婚はしたいけど、お金の使い道や生活の安定のために子供を後回しにしている。

どちらかという、拘束されたくないっていう親が多いということ。

委員長 それは聞きかじりなんで、ちゃんとそのデータも含めて検討した方がいいとは思いますが、まさにやりたいのはそういう話だ。

北島委員 子育てとか賃金とか言っても、今対象になってる人に見てみたら非常にありがたい、助かってるっていう感じだけど、こども少ない人に見てみたら全く関係ない。それが助かるっていうことがわかってない。

委員長 出産したらわかるってことですね。どう思いますか卯目議員。

卯目委員 私も結構長いこと婚活やってるけど、結婚しない人が多いっていうより、つかみに来ない。男の子はいっぱいいる。だけど女の人は登録も少ないし、そこに出かけるのも少ない。断るのもあっさり切ってしまう。それはなぜかなって思うと、精神年齢が違ってて10歳ぐらい離れた人と結婚するとうまくいくっていう、そういうのがあるけど、現実はやっぱそうじゃない。もう本当にいろんなことを考えるけど、答えは出ない。

北島委員 マッチングアプリに補助だしてするのが一番いい。

委員長 県も確かAIマッチングしてましたよね。

卯目委員 県もしている。少しずつ増えてきてるんで、加入するときに男性は会費1万。女子も1万かな。でも男性の方は何年かやってて、3年くらいやって40人くらいの人に会う。110項目ぐらいある項目を入れていくと、マーケティングに出てくる。男性の方は会いたって言うけど女性は断る。最高の人で40人くらい断られて、結局もうそっち駄目ですってなって、また私らの方に来るっていうのがある。だから私が思ってるのは、どうしてその男性が多くて女性が少ないのかとか、その原因を探した上でやる。それから地元のところには申し込みたくない。その活動してることを知られたくないっていうのがある。

中垣内委員　　今、女性の方がなかなか結婚に踏み切らないっていうのが、今は女性が活躍する社会っていうのを目指しているっていうところで結婚したらそこが自分のキャリアがなくなってしまうとか、今、この経済的な不安定さがあるって、子供を作る余裕がないとかがあると思う。そういうことをちゃんとしたデータをまた持っていきたい調べたいと思うんですけど、そういったことも言われているっていうのをすごく聞くので、社会の仕組みといた、そこに対して、あわら市としてどうやって動いていくかっていうところも、ちょっと大きな話になるけど、そういったことも女性としてすごく感じている。今、卯目さんがおっしゃったこのあわら市で婚活の登録をしたくないっていうのは何か、あわら市への興味がなかったりとか、ここで子育てしてもとかここで結婚しても便利が悪いんだろうなと思って、市外に出たいなっていう思いは私も思ってたんで、そこも大きいかなと思う。

北島委員　　結婚がだめなら、移住定住かな。

関山委員　　子供の出生率に関して言うと、結婚して0人を1人にする施策について議論されてたと思うんですけど、個人的に思うのは、例えば子供1人のところをもう1人産もうか、子供3人の家庭を4人にしようっていうところを手助けてあげた方がいいかなと考えている。社会としてそういう家庭を助けてあげる。

委員長　　子供を作りたいと思ってる人にサポートを厚くするってことだね。

関山委員　　3人兄弟が普通だったのを、4人兄弟にするとか5人兄弟を考えてみるかみたいところを助けてあげるといいのでは。0から1のハードルはかなり高いと思っている。

委員長　　そこに着目してデータあたってみるのはありだと思う。

ひとつのテーマで議論することも有用性があると思った。ヒアリングは説明をしてもらって、理事者側は時間を区切って負担のないようにして、その後それについて議論する形式がいいのかなと思う。

北島委員　　あわら市の制度を知ったうえで協議する。

委員長　　来年、以降進めるヒアリングはそのスタイルで行きたい。

ただ、みんなでやるというより専門性を持ってもらいたい。この部分についてはこの人に調べてもらいたいということができればいい。例えば婚活という話になった時、4つのグループで二人ずつになると思うが、その人たちに関しては、行政のこと、もう少し広範なことを調べて臨んでほしい。その人に聞けば基本的にある程度専門的な答えが返ってくるという形にしたい。ぜひその形で進めたいと思う。

皆さんの興味対象をもとに案を考えたので、僕の方の案を聞いてもらっていいですか。

教育と子育てに関しては、南議員と副委員長の北浦議員。産業雇用は北島議員と野沢議員。野沢議員は教育もなんですけど、今回是非こちらでどうかと思う。生活基盤の強化に関して、中垣内議員と関山議員。これは多分住居とかも入るので2人の興味関心に近いんじゃないかなと思って。最後の出生率と健康寿命が僕と卯日議員。これで多分、興味関心としては一応丸く収まるかなと思うんですけどいかがか。

野沢委員  
委員長

さっき話してた移住を増やすためにみたいな視点を入れてほしい。

実は、ここに入りきらない包括的なテーマっていうのが実は裏で僕も存在していると思っていて、その1個がまさに移住定住でもう1個は財政基盤の確立とかっていうもので、これは全てにまたがる、と思っている。なのであえて今回入れてない。どちらかというとそのテーマに関しては、その個別専門っていうよりは、それは是非みんなで考えたいんで、逆に言うと野沢議員が気にしてる場合はそこをプラスして、どんどん進めてもらえばよい。一応グループとしては決めますが、そこだけをやればいってことでは全くないので、興味が湧いたら他も手出してよくて、要はそこだけは責任を持っていただきたい。そうしないとその専門的な知識が入らずに議論になってしまうんで、それはよくないのという意味合いなんですけどよろしいか。

北島委員

昔の話で申し訳ないけど、室谷議長が委員長のとときに、プロモーションビデオを見て相生市に行きたい、といていた。給食費無償化とかいっているプロモーションビデオだが、あわら市もプロモーションビデオをやっている。(相生市の)それ見てもらうとわかるようにとてもいいプロモーションビデオだった。相生市は明石市の横なんで競争してる感じがある。そのプロモーションビデオみたいなのを、市の予算が許されるのであれば、今いろんな政策で成功してる部分があるので、そんなこともやっていったらいいかなと思う。

委員長

今は、AIでやっている。

野沢委員

この委員会の活動のゴールみたいなのがあると、みんな動きやすいかなと思った。この前も提案したんですけど、茨城県の境町、あそこはチラシが本当にうまくできてた。すごくわかりやすい、こういう町なんだっていうのが一目でわかる。ああいう形のものをあわら市として、つくる。まず私達の中で、本当はもうやってることってあったりすると思う。それを可視化するじゃないけれど、ああいうのを出すっていうのをゴールにして動いてみたらっていう、提案である。

委員長

本当はあるものもあるし、新しくやるものもあるけど、それをちゃんとあわらってこんなにいいでしょっていうのを我々自身が作ってみる。予算

もない中、なかなかの提案をしている。でもそれは1個の成果物としては非常に面白いかも知れない。本当に最後それでいくかどうかは、もう少し議論はあるにしても非常に面白い提案だと思うんで、それに近いものがあったらいい気がする。我々がせっかくやるのであれば、やっぱり何らかの成果が欲しくて、それは提言だけではなくて、そもそも我々がちゃんとその魅力を理解してそれを発信できるようなものを作る。しっかりそれも入れ込みたいと思う。走り始めてから議論させていただきたい。今、非常に短期的な話をしてるんで、その後に中期長期話しますんで、ぜひそのときにしっかり決められたらと思う。では、テーマ今4つなんですけど例えば移住定住PRみたいなもの1個加えて、野沢議員にそこに行ってもらおう。産業と雇用も一応そのメインは北島議員だと思うんで、そこにもいていただいて、先ほどの移住定住PRのところも、僕と一緒にやるみたいな感じでもう1個作ってもいいのではと思うがいかがか。

北島委員 産業というのはちょっとかたすぎて、幅が広がらない。どうしても補助金ベースなので。あわら市の補助金の状態を調べて加賀市や永平寺町、坂井市と、比べることになって、優位性はどうなんやって話をしていくことになる。引っ張ってくるのは商工の方でやってもらわなあかん。考えてもすぐ結果には結びつきにくい。

野沢委員 誘致するっていうのも一つだと思うんですけども、今ある既存の企業の中で、女性の子育てを応援してますみたいなものをどのぐらい企業がやっているのか調べたりとか。それを増やす、何とか認定マークみたいなものをだして。

委員長 県がやりましたよね。

野沢委員 そういうのをやっている企業があわら市の中でこれだけあります、そしてさらにそれを増やしていきます、みたいな感じで、ここに調べたりして入れてみたらどうかなと思う。

北島委員 だけど、企業には聞きに行けない。

委員長 県が一応女性の働きやすい職場みたいなものをやっていた。

北島委員 企業が出してる、そういうホームページとかそんなところを探りに行くことはできるけど、直接はいけないと思う。

関山委員 さっきの女性の認定に関して、補助金の要綱の中に入ってる。

北浦委員 野沢委員がおっしゃられたことに関連して、今、市の1階のロビーに行くと案内係がありますけど、その後ろに子育てや移住定住のポスターとかの新しいやつが出てきている。理事者側も結構なんか考えてる。この委員会で何かそういうのを作ろうとしても、現状理事者がやってることを踏まえながら、それにプラスアルファしていく。また違う形のものを出してい

こうとするとかなりの労力があると思うので委員会として何か工夫が必要になってくると思う。出すこと自体、僕は理事者が行っていることを、この委員会として噛み砕きながら、さらにプラスアルファしたものを作っていく、そういうスタイルでいくと、さらにパワーアップしていくのかなと思う。

どういう風に発信していくか、は議論していかないといけない。

今日の朝の行政報告の中でも総務厚生常任委員会の委員長がおっしゃっていたけど、企業を取り込んでやってるところありましたよね。何かそういう資料もあると思うので、参考にさせていただくといいのではないかな。

南委員

三上さんが出してくれたこのグルーピングは同じようなことを考えていた。この前、委員長から提案があった人口減少を緩和していくとか、止めるという発想じゃなくて、街を豊かにしていくとか、未来への投資を考えたら絶対残すべきなのは、保育教育のキャリア教育をどう充実させていくかというのは残さないといけないと思ってるが、これだとどうしても人口減少を食い止めるような部類になると思ってしまう。考えたことをいうと、グルーピングの枠組みを保育教育を含めたキャリア教育部門。今いるあわら市の市民に豊かさを追求していくようなことを考える部門。もう一つは企業を巻き込んで、企業と市民を含めて何かしていく未来投資部門というくくりで考えていた。これ全部移住定住に関係すると思う。人口減少を止めるというのではなく、今住んでいる住民を豊かにする、そこから考えていく視点っていうのは、駄目ですか。発想をちょっと転換するっていうことを受けて、中身をもろに考えていくより、そういうところを僕らは研究していく。婚活など直接関係あるところは、全員で理事者とやっていく。深いところで豊かさについてやる、ほかは分科会でそれぞれが研究してやる。でも緊急的なものは全員で向かうということではどうか。

委員長

南議員のおっしゃる通りだと思っていて、むしろそのニュアンスもここにあり、別に今四つグルーピングしたものが、人口減少を食い止めるために特化しているという意味ではなく、南議員のおっしゃってるようなことも含まれていると僕はそういう前提で用意をしている。

南委員

これをやるにあたって、この四つでもいいんですけどもこの分野に関して、全員で1回SWOT分析を、できたら理事者も入れて、大きい紙でやってみたらどうか。それをもとに、それぞれグルーピングされたメンバーが調べて政策を考えていくっていうのをやったらどうかかなと思う。

委員長

つまりグループピングのところもSWOT分析をもとにやった方がいいのではないかなという提案でいいのかな。

- 南委員            グルーピングはそれでいい。例えば教育と子育ての魅力化という一つの分野に関して、あわら市が持つ政策を全員と理事者で一つの表としてやってみる。強みとか弱みとかがわかりやすい。その方がやりやすいと思う。
- 関山委員  
委員長            理事者がすでに行っている。
- 提案の内容っていうのは今 SWOT っていう話をいただきましたけど、多分このメンバープラス理事者で詳細化しよう、もう少しトピックスわけしようというような話だと思うので、それについては確かに必要かもしれないなというふうに思う。懸念をしているのは、その話は結構時間取られる。議員側はここで同意すればそれで済む話だが理事者が入った場合、それなりに時間がかかる話になるだろうという懸念があるので一旦持ち帰らせてほしい。意見として、解像度を上げるっていう意味でそれは有用だと思うので、ここでは決められないという意味で持ち帰らせてほしい。
- 関山委員            SWOT 分析するのは別に賛成だが、この少人数でやるというのがちょっと反対だ。なぜかという固定観念が入りすぎるから。大きい単位でしないと正確なデータが取れないと思う。
- 委員長            つまり、このコンセンサスでなくて、もう少し一般的なものを取りたいってことですね。ここと理事者だけで SWOT 分析してもあんまり意味がないということですね。だからいわゆる市民ワークショップみたいなもので、やった方がいいということですね。
- 関山委員  
委員長            もっと大きいくくりでやるなら僕は賛成だ。
- 今いただいた二つのご意見をもとに、僕と副委員長で少し検討する。グルーピング案としては一旦これで行かせていただくが、先ほど南議員がおっしゃっていたこと自体は、その観点は逆にに入れて調査していただければいいと思うので、ぜひお願いします。グループ分けについても 1 個増えるので、五つ、ということで行かせていただこうと思う。ちなみに教育に関しては、常任委員会の方でも、教育行政についての継続調査の願いが今日まさに本会議で出たと思うんですけども、そのような形で教育行政については常任委員会でも進むので、是非そこと連携をしていただき、調査いただくのもいいかなと思う。
- 南委員  
委員長            どうやってコンタクト取るのか。
- 中心となって進めていただくのは中嶋議員です。別に何か今決まってるわけじゃないので、そのような形で進めていただけると、シナジーが生まれるかもしれないなというご提案ぐらいの話だと思ってほしい。先ほど北島議員がおっしゃっていたようにやりやすい、動きやすいところからピアリングをかけていく形がいいかなと思っている。先ほどの提案ですと例えば婚活関係になると多分この一番下の出生率増加の部分とか健康寿命延伸

のこの辺でどちらも何かやろうと思えばできるし、やってることも多いと思うので、そこからやろうかなと思うが、それでよろしいか。1月はまずそのテーマでということ。テーマ選定に関しては各グループで主導していったらと思うが、よろしいか。基本的には今後、ひと月ごとにこの五つのテーマをヒアリングしていく。月1回やりましょう。時間かかりそうだったらひと月に2回ぐらいやってもいい。ここに一応まとめていき、プラスで最終的なアウトプットをその中でも検討していくというような形で進めていこうかなと思う。今日話したことと何をするかということは、まとめて皆さんにお示しする。

野沢委員 提案だが、理事者と会う前に1回その調べてきたことなどその担当の人に提案してもらって話をして整理をした上で、理事者と話をするのがいいのではと思う。

委員長 例えばだが、次回、もし子の出生率と健康寿命延伸をやる場合は、僕と卯目議員でまず調べる。その上で、テーマも含めて現状を整理したものをこの場で一度出して、その場で話をした後に理事者に来ていただいて、実際にそのレクチャーまたはヒアリングをするという形をとった方がいいということですよ。

野沢委員 そういうことです。

委員長 例えば30分間こちらで最初にまず自分たちだけで知識の共有をした上で、次の30分で理事者との話をする、ということですね。

暫時休憩 2:23 再開 2:24

南委員 例えば教育と子育ての魅力に関して、すごく幅広くて、具体的なことを決めても、現実味に欠けるというものもあり、例えば企業も巻き込んでやっていきたいというような提案の形でもいいのか。

委員長 結構だ。そういう話はみんなでやりたい。今、行政側で何がされているのか。それが発展的で先進的なことがどこかでされてないかっていうこと、つまりまず情報が重要なので、その部分をまずお願いしたい。もちろんそこに対してこういうことをしたい、ああいうことをしたいということも、提案いただければ結構だが、それに関してはあくまでそのグループがそう思っているということを提案していただくことになり、そこで決めるわけではないので、自由にご提案いただいて大丈夫である。だが前提は調査をしてほしいということだ。個人の私情は入ってもいいが、やはり客観的なものが前提で必要だと思っている。

北島委員 千葉県流山市と長野県南箕輪村の事例紹介。

卯目委員        その事業をやるまでの過程や苦労とかを知りたい。そこへいくまで、どんなふうにしたらそうなったのかとか、60年って今言ってるけどその長い間にどんなことがあって、今になったかっていうそういうことを私らはやっていかんと、いいことばかり言ってもなかなかね。

北島委員        内職でもいい何かお金の足しになることをしたいっていう人を俺らの子育ての時期もいた。時間単位で例えば乳幼児2歳ぐらいの子がいて今日どうしても買い物行きたい、髪の毛も切りたい、2時間だけ預かってもらうとかそういうところも、都会ではある。

卯目委員        今言ったことはあわら市もある。  
北島さんが言われたような悩みがあって、その上でやっている。だから家庭というか、どうしたらそうなるかっていう、それが一番大事かなと思う。

委員長        今、皆さんおっしゃっていただいたことって、それぞれ観点だと思う。こういう観点で見みるとやっぱりいいよねっていうことを是非自分のものにしていただきたい。

北島委員  
委員長        最終的にホームページなりで形を作る。プロモーションビデオを作る。  
そのようなことをこちらとしては提案できると非常に建設的というか成果になるかなとは確かに思う。やはり我々は変なことを提案してはいけないので、成功事例とか失敗事例も含めて学んで、本当にこれだなというものを全体で作って、提案まで持ってきてほしいと思うので各自よろしく願います。

次は僕と卯目議員のテーマでやるが、毎月、各グループに対して少し進捗はお聞きする。少しずつ進んでいていただきたい。調べていただいてもいいですし、見に行っていていただいてもいいですし、その辺も全部ご相談いただけたらと思うので頑張っていきたいと思います。

## (2) その他

委員長        ほかにあるか。

(なし)